

令和元年度奈良市食育推進会議録

開催日時	令和2年2月18日（火）午後2時～3時30分	
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター 9階 9-1会議室	
出席者	委員	出席委員 11人
	事務局	5人
開催形態	公開（傍聴人1名、取材 1名）	
担当課	奈良市観光経済部農政課	
内容	奈良市食育推進会議の会長・副会長の選出 議事	
	(1) 令和元年度食育推進事業報告 (2) 第4次奈良市食育推進計画の方向性及び策定スケジュールについて (3) 市及び各団体の今後の取組について	

議事の概要及び議題・主な意見等

奈良市食育推進会議の会長・副会長の選出

瀧川委員が会長に、岩橋委員が副会長に選出され、瀧川会長が議長となり議事を進行した。
11名全員出席。

議題（1）令和元年度食育推進事業報告

【資料4】第3次奈良市食育推進計画実施計画シートに沿って事務局から説明。

(岩橋副会長) 私立園での食育の取組はどのような状況か。把握しているのか。

(事務局) 保育総務課が監査指導を行っている。園からの相談があれば随時対応をしている。また、特定給食施設指導では給食を提供している施設を対象に、年に1回栄養管理報告書を配布して食育の実施状況をあわせて把握している。

(岩橋副会長) 特定給食施設指導について、現在、保健所に栄養指導員の管理栄養士がいないと聞いている。栄養指導や国民健康栄養調査はどのように行っているのか。法的に、保健所として指導する立場として問題ないのか。

(事務局) 今年度は健康医療部の管理栄養士が入り対応をしていると聞いているが、担当課に詳細を確認してお答えする。※別紙参照

(山中委員) 就学前の子どもの食経験が浅いということを年々課題に感じている。特に、奈良市では、公立の幼稚園に給食がないことが課題だと感じている。こども園化することで給食を提供する

園が増えている。給食を提供することでいろいろな食材に触れ、経験が広がり、小学校給食に対する不安がうすれると考えている。現在の食育推進計画のなかでは就学前の食育に触れられていないので、それを加えていくとさらに充実していくきっかけになるのでは。市立の幼稚園、こども園の給食の実施状況はいかがか。

(瀧川会長) 給食未実施園で、今後給食をはじめていけるようなアドバイスや見解があるか。また、今後の方向性は。

(事務局) 未実施園も含め、市として将来的には全園こども園になる方向と聞いているが、詳細は担当課に確認する。※別紙参照

(山中委員) 公立の幼稚園では給食が未実施で週5日弁当である。お弁当だと早く食べられたのに、小学校給食がはじまると給食が食べられないということが起こっている。お弁当の場合は子どもの好きなものばかり入っており、野菜が入っていなかったという実態が多くみられる。食育は早ければ早いほど、効果があると感じている。食経験が浅い場合、すぐに給食になじめず困っている子どもが多い。

(事務局) 現場でおそらくそういったことは認識されており現場で何も対応をしていないということはないと認識している。いただいたご意見を担当課に伝える。

(百木委員) 高齢者の配食サービス事業について、評価指標はよいと思うが、1食あたりの栄養価(エネルギー、たんぱく質)の平均値が低いように思う。サルコペニア予防ではたんぱく質25gが推奨されており、たんぱく質17~20gはかなり少ない印象である。配食サービスを実施することで高齢者の自立の増進を図るという事業目的は違和感がある。逆に料理をする方が自立を促すのでは。

(事務局) 性別の違いや栄養価の幅があるのかも含め、担当課に目標値の確認と事業目的を確認する。※別紙参照

(稲野委員) 大和茶授業のアンケート結果で、小学生の家庭の半分に急須がないというのを聞いて驚いた。急須がないということは、お茶はペットボトル等で買うものということになっているのか。ペットボトルで飲むとプラスチックの問題、環境面で良くないと思う。大和茶をもっと広報していただけたらと思います。

(事務局) 小学生で、急須を急須と認識していない子がいる可能性もある。授業では急須や湯冷ましの説明もしている。緑茶については子どもの食経験の差が大きいと感じている。

(瀧川会長) 子どもはあまり緑茶を飲ませない方がよいということがあるのか。煮だしのお茶がよ

いなどということがあるのか。

(事務局) 子が幼いとき、保護者がカフェインを気にして緑茶を飲ませない親はいる。特に子が幼い時、ノンカフェインの麦茶などからはじめて、次は緑茶にという流れになっていないのかもしれない。

(山中委員) 発達段階で、永久歯が生えるまでは味覚が未発達で熱湯で抽出されるカフェインを苦いと感じてしまう。市が大和茶授業を開始する以前から私の担当する学校でお茶の授業を行っている。ほうじ茶はカフェインがないのでまずほうじ茶からはじめている。冷茶もカフェインが抽出されにくいので強く苦みを感じない。3年生になると大和茶研究センターに行き、見学するがお茶を飲まずに帰ってくるので、市の大和茶授業で実際に大和茶を飲むことで大和茶の体験が完成すると認識している。保護者を対象に学校保健委員会等で体験も行っている。大人も、講座を受けてお茶に甘みがあることを初めて知って感動される方がいる。農政課で大人対象や学校の保護者対象に実施を予定しているか。

(事務局)

大人対象では実施しておらず、今後予定はない。小学校3年生で奈良市の農業を学習されるタイミングにあわせて授業を行っている。子どもには家庭でおいしいお茶を淹れてほしいと伝えている。

(山中委員) 子育て世代の親と一緒に体験することで学びの共有ができたり、学びが深まったりする。今後は大人も含めて体験ができるとさらによい。

(瀧川会長) 保護者も一緒に体験することで家庭への波及効果やさらに理解が深まるということは実際ある。

(事務局) 大和茶授業のアンケート項目「どんな時に大和茶を飲みたいですか」では、「おじいちゃん・おばあちゃんと一緒のとき」と答えた子が最も多いことから、実際に親と一緒に飲むことがあまりないことが伺われる。

議題(2) 第4次奈良市食育推進計画の方向性及び策定スケジュールについて

(事務局) 令和2年度に第4次食育推進計画の策定を行う。次年度、食育推進会議を2回開催予定。次の計画は食育推進計画と地産地消計画を一体化させる予定。他の自治体でこのような一体化した事例を照会したので参考にしていきたい。

本市の地産地消基本計画、地産地消促進計画の概要と進捗状況について説明。

(岩橋副会長) 食育推進会議は条例で設置されているが地産地消計画にも同じように条例設置の委

員会があり、それが食育推進会議と一緒になるということか。

(事務局) 地産地消の計画には委員会の設置はなく、一緒になるということはない。

議題(3) 市及び各団体の今後の取組について

(事務局) 市として令和2年度は計画の策定が中心となる。あわせてセミナーやイベントも実施していきたい。日程は調整してお知らせする。令和元年度に市民と高校生を対象にそれぞれアンケートの実施を予定しており、評価を行いつつ第4次計画に反映する。次期計画は、国と第4次計画のスタートが同時となるので、国の動向を参考にしながら進めていきたい。これまでの計画は国、県の後に策定していたが、第4次計画では同時スタートになるので国の動向など可能な範囲で確認しながら皆様にはご意見をいただきたい。

(瀧川会長) 食育ネットの予定などはあるか。

(事務局) 事務局として、現在調整中であり予定がわかればお知らせする。

(瀧川会長) 各委員から団体の取組の情報提供があればお願いします。

(田中委員) 地産地消や農業体験を目的に毎年めぐりスクールを実施し、小学生のみなさんに好評をいただいている。今年は年6回実施するなかで多くの団体の方に協力いただき食の安全安心、食の大切さ、農業の大切さを多くの方に学んでいただくことができ、感謝している。今後も引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

(岩橋副会長) 2月22日に帝塚山大学があべのハルカスで食育活動を行う。昨年、近鉄百貨店奈良店で食育活動を行った時からのつながりがきっかけとなった。令和2年度の4月にも近鉄百貨店奈良店で子ども対象の食育イベントを予定している。

(福吉委員) 3月14日～15日には、奈良県との共催事業として奈良県営うだ・アニマルパークでシェフェスタを予定している。奈良県産食材の魅力の発信や子ども達に参加してもらえる食べる学校も予定している。

(山中委員) 配付資料のとおり、学校栄養士は配置校以外に未配置校に出向いて食の授業を行っている状況である。学校現場では、早いスピードで世代交代が進んでおり、配置替えが行われており、今年度は奈良市の栄養士の半分が退職または異動した。そのような状況でも引き継いでいけるよう食育プログラムを作り積み重ねている。栄養士以外に、外部講師も含め教科横断型の食育も含めると市内100%の公立学校で食育が実施されている。学校給食はJAならけんなど関係機関の協力により、様々な地場産物食材が納品され定期的に使用できている。奈良市産の酒粕も納品されるなど今年度は品数が特に増えた。今後は生活習慣病予防や、防災などにも取り組んでいきたい。

(萩原委員) 市内の若手農業者を中心に構成される奈良市4Hクラブでは、メンバー紹介や活動拠点の地図入りのチラシを作成し、毎年更新している。20代の人もあり、今年も新しいメンバーが苺を作るなど頑張っている。

資料

- 【資料1】奈良市食育推進会議規則
- 【資料2】奈良市食育推進会議委員名簿
- 【資料3】第3次奈良市食育推進計画概要版
- 【資料4】第3次奈良市食育推進計画実施計画シート
- 【資料5】大和茶授業の概要(農政課)
- 【資料6】アクティブシニア農業体験事業報告書(農政課)
- 【資料7】令和元年度 食育推進の実践報告事例集(奈良市教育協議会食育推進部会)
- 【資料8】奈良市立学校給食献立表(小学校・中学校/保健給食課)
- 【資料9】第4次奈良市食育推進計画策定スケジュール
- 【資料10】自治体の食育・地産地消計画の位置づけに関する照会結果
- 【資料11】奈良市地産地消基本計画
- 【資料12】奈良市地産地消促進計画
- 【資料13】奈良市地産地消促進計画における具体的施策の実施状況
- 【資料14】奈良市地産地消促進計画(改正案)

令和2年2月18日(火)奈良市食育推進会議にて指摘・質問事項

質問事項	担当課	回答
<p>私立園での食育の取組はどのような状況か。把握しているのか。(岩橋副会長)</p>	<p>保育総務課</p>	<p>指導監査において私立こども園・保育園の食育の実施状況を確認している。各私立こども園・保育園の状況や特性に応じて食育指導計画を作成、教育・保育計画に位置付けをし、計画に基づいて食育の取組みが行われていることを把握している。</p> <p>私立こども園・保育園はすべての園において食育の取組みを実施している。</p>
<p>特定給食施設指導について、現在、保健所に栄養指導員の管理栄養士がいないと聞いている。栄養指導や国民健康栄養調査はどのように行っているのか。法的に、保健所として指導する立場として問題ないのか。(岩橋副会長)</p>	<p>保健衛生課</p>	<p>健康医療部の管理栄養士を健康増進法第19条に規定する栄養指導員に命じ、奈良市として栄養指導や国民健康栄養調査を行っており、法的に問題は無い。</p>
<p>就学前の子どもの食経験が浅いということをや々課題に感じている。特に、奈良市では、公立の幼稚園に給食がないことが課題だと感じている。こども園化することで給食を提供する園が増えている。給食を提供することでいろいろな食材にふれ、経験が広がり、小学校給食に対する不安がうすれると考えている。現在の食育推進計画のなかでは就学前の食育に触れられていないので、それを加えていくとさらに充実していくきっかけになるのでは。</p> <p>市立の幼稚園、こども園の給食の実施状況はいかがか。(山中委員)</p> <p>給食未実施園で、今後給食をはじめたいけるようなアドバイスや見解があるか。また、今後の方向性は。</p> <p>(瀧川会長)</p>	<p>保育総務課</p>	<p>市立幼稚園は給食を実施していないが、今後のこども園への移行に伴い給食提供を開始することとなる。</p> <p>現在、市立幼稚園においても食育計画を作成し菜園活動やクッキング保育を実施している。また、小学校と連携して入学前に給食の試食会などを開催する市立幼稚園もある。</p> <p>市立こども園では現在18園全園で給食を実施している。</p>

<p>高齢者の配食サービス事業について、評価指標はよいと思うが、1食あたりの栄養価（エネルギー、たんぱく質）の平均値が低いように思う。サルコペニア予防ではたんぱく質 25g が推奨されており、たんぱく質 17～20g はかなり少ない印象である。配食サービスを実施することで高齢者の自立の増進を図るという事業目的は違和感がある。逆に料理をする方が自立を促すのでは。（百木委員）</p>	<p>長寿福祉課</p>	<p>当課の配食サービス事業においては、「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」という厚生労働省の通知に基づき、「2015年版食事摂取基準」70歳以上身体的活動レベルⅠを参考として目安を示している。2020年度版の摂取基準が新たに公表されているので、基準の見直しを行う予定。事業の対象は、調理が困難である高齢者としており、介護保険サービスが入らない日などに安否確認を兼ねて利用されている。定期的にサービスが入ることで住み慣れた地域での自立した生活を維持することを目的としている。</p>
---	--------------	--